

小学校第5学年 道徳科 学習構想案

日 時 令和7年11月14日（金）第5校時
場 所 プラザホール
指導者 教諭 那須 有紀美

1 学習構想

主題名 教材名		親切な思い B-（7） 親切、思いやり 「くずれ落ちただんボール箱」（出典：小学道徳 生きる力5 日本文教出版 P120～P123）		
主題について		本主題は、小学校学習指導要領道徳編の「よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢として、相手に対する思いやりの心を持ち親切にすること」に関する内容項目である。第5学年及び第6学年の指導内容B-（7）「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。」をもとに設定したものである。		
本主題の中心的なテーマ		本主題で働かせる見方・考え方		
親切にするとときに大切な心とは何だろう？		親切にするとときに大切な心について、多面的・多角的に考え、自分との関わりで考えながら、これからの生き方に生かそうとすること。		
各教科等や体験活動等との関連				
時期	各教科・特別活動等	道徳科	体験活動・日常活動等	児童の心の動き
6 月	○行事 「集団宿泊教室」 集団生活を通して、相手を思いやって親切に行動したり協力したりして、友情を深める。	〈相手のための親切〉 B-（7） 親切、思いやり 教材名：「やさしいユウちゃん」 時には言いにくいことも言うユウコの姿から、相手の成長など相手の立場を考えて行動することがやさしさには大切であることに気付き、相手の立場になって、進んで親切にしようとする心情を育てる。	○朝の会・帰りの会 「ひみつの友達」 友達のよいところを見つめよう。	相手の立場に立ち、思いやりをもって親切に行動することが大切なんだな。集団宿泊教室で学んだことを今後に生かしたい。
	○総合的な学習の時間 「松橋西支援学校との交流会に向けて」 相手の立場に立ち、みんなが楽しめる交流内容を考えたり、準備したりする。		○松橋西支援学校との交流会 相手の立場に立ち、思いやりをもって活動しよう。	
11 月	○行事 「運動会」 相手の立場に立ち、お互いに助け合ったり励まし合ったりして、よりよい運動会をつくる。	〈親切な思い〉 B-（7） 親切、思いやり 教材名：「くずれ落ちただんボール箱」 親切・思いやりは、相手に認めてもらいたい心ではなく、一心に相手のために思い自分にできることをしようとする心から生まれることに気付き、思いやりの心で親切にしようとする心情を育てる。 【本時】	○心タイム 道徳の時間に考えたことをこれからの生活に生かしていこう。	親切は、誰かに認めてもらうためではなく、相手のために思っているものなんだな。これからは、どんな場面でも親切にしていきたい。
	○学活（人権学習） 「この子とともに」 正しいことを理解し、相手の立場に立ち、思いやりのある行動をしていく。		○委員会活動 ○当番活動 ○係活動 学校のみんなやクラスのみんなが楽しく気持ちよく生活できるように、相手の立場に立って、いろいろな活動を工夫しよう。	
1 月	○総合的な学習の時間 「水俣に学ぶ肥後っ子教室」 正しいことを理解し、差別や偏見を許さない心をもつ。	〈よりよい信頼関係〉 B-（10） 友情、信頼 教材名：「知らない間のできごと」 友達を自分の視点だけで見るのではなく、相手を正しく理解し、自分の思いをきちんと伝えることがよりよい友達関係を築くことにつながると理解し、信頼し合い、友情を深めていこうとする態度を育てる。	○休み時間 ○全員遊び ○学級会 クラスのみんなが楽しく生活できるように思いやりをもって親切に行動しよう。	相手の思いをよく考えてから行動することが大切なんだな。相手を正しく理解し、よりよい友達関係をつくっていききたい。
目指す児童の姿（期待される姿）				
誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする児童				

2 主題との関連及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所（内容、指導事項等）				
高学年の内容項目にある「誰に対しても」というのは、不特定多数の人々への広がり期待されている。相手の置かれている立場や状況までも考え、どうすると相手のためになるか、相手が喜ぶかを考えるのが思いやりであることを理解させたい。また、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を、児童が接する全ての人に広げていけるようにしたい。				
児童の実態				
■本教材の内容項目に関する意識の状況（令和7年7月7日実施）24人／24人				
	はい	いいえ		
周りの人に親切にできていますか。	14	10		
親切にしたいけれど、親切にできなかったことはありますか。	7	17		
（それはどんなときか）知らない人だった、親切にするべきか分からなかった、勇気が出なかった、迷っているうちに他の人が助けてあげていた、めんどろだった、言いにくかった等				
親切にするよさとは何だと思えますか。				
親切にしたら自分にも親切が返ってくる・自分も相手もうれしい・自分も相手も気持ちがよくなる・困っている人が助かる				
■道徳の学習に関する意識の状況（令和7年7月7日実施）24人／24人				
	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
自分の考えを積極的に発言（少人数も含む）しながら、考えを深めていますか。	6	11	7	0
道徳の学習を自分との関わりで考えていますか。	6	14	4	0
友達の考えのよさに気付いて自分の考えに取り入れていますか。	7	12	5	0
■考察				
【内容項目に関して】				
親切にすることは大切だと分かっているが、相手や場面によって親切にする行為に迷いが生じる児童も見られ、どのような場面でもすべての人に親切にできるところまでは至っていない。また、親切にするよさとして、「親切は自分に返ってくる」、「親切にすると自分も相手も気持ちがよい」など親切にすると報われるという認識をもっている児童が多かった。そこで、親切の価値に気付かせることで、一心に相手のために思い自分にできることをしようとする心が大切であることを考えさせたい。				
【道徳の学習に関して】				
全体的に道徳の学習に積極的に取り組んでいる児童が多いが、自分の考えを発言することが苦手な児童が数人いるため、ペアやトリオでの話し合いを取り入れることで全員が発言する機会を設けたい。また、友達の考えのよさに気付くことができていない児童が数人いるため、話し合いの中で、友達の考えに対して質問をしたり納得した考えを出し合ったりすることで自他の考えのよさに気付く機会を取り入れたい。				
題材・教材の価値				
本教材は、ショッピングセンターで5歳くらいの男の子が倒してしまった段ボール箱を「わたし」と友子がおばあさんに代わって片付けたが、事情を知らない店員さんから注意されてしまうという内容である。親切な行為が否定されてやりきれないと思う児童の気持ちに共感しながらも、認めてもらえないと自分のやったことが間違いだったと思ってしまう心の弱さに気付かせることができる教材である。主人公の葛藤を自分との関わりとして捉え、親切は何のためにするのかについて考えを深め、認めてもらえなくても相手の立場に立って思いやりの心で親切にしようとする心情を育てたい。				

3 指導上の留意点及び研究テーマとの関連

- 総合的な学習の時間において、道徳科での学びを意識した児童の発言や行動を取り上げて紹介する。例えば、「松橋西支援学校との交流会」では「親切、思いやり」の内容項目と関連を図ることで、児童の道徳的価値に対する理解の深化につなげる。（視点1-イ：目指す児童の姿を意識し、教科等との関連を図った単元デザインの工夫）
- 話し合いの場面では、自他の考えのよさに気付かせることで自分の考えを深めることができるようにする。そのために、質問や納得した考えを出し合いながら、「はっきり」「強く」「変化」「広がり」の4つの視点をもとに話し合うようにする。（視点2-イ：自他の考えのよさに気付かせる話し合いの工夫）
- 道徳科と関連した学びの跡を教室に掲示する。日常生活の中で道徳的価値に関わる児童の姿が見られたときや「心タイム」で、掲示と関連して価値付ける。（視点3-ア：学びの日常化を図るための工夫）

※「人権が尊重される授業づくりの視点」

自己存在感	児童は、お互いに体を向けて話を聞き、反応を返すことで一人一人を大切にしている姿勢を見せる。また、教師は、承認、賞賛、励ましの言葉をかけるようにする。
共感的関係	児童が考えを発表したり話し合ったりする場面では、「授業で使いたい言葉」を意識して反応を返したり考えをつないだりして、自他の考えのよさに気付くことができるようにする。
自己選択・決定の場	児童がネームプレートを置くことで自己選択できるようにしたり、教師が発問や問い返しを行うことによって児童が自己決定する場面をつくるようにする。

4 本時の学習

(1) ねらい

親切・思いやりは、相手に認めてもらいたい心ではなく、一心に相手のために思い自分にできることをしようとする心から生まれることに気づき、思いやりの心で親切にしようとする心情を育てる。

(2) 展開

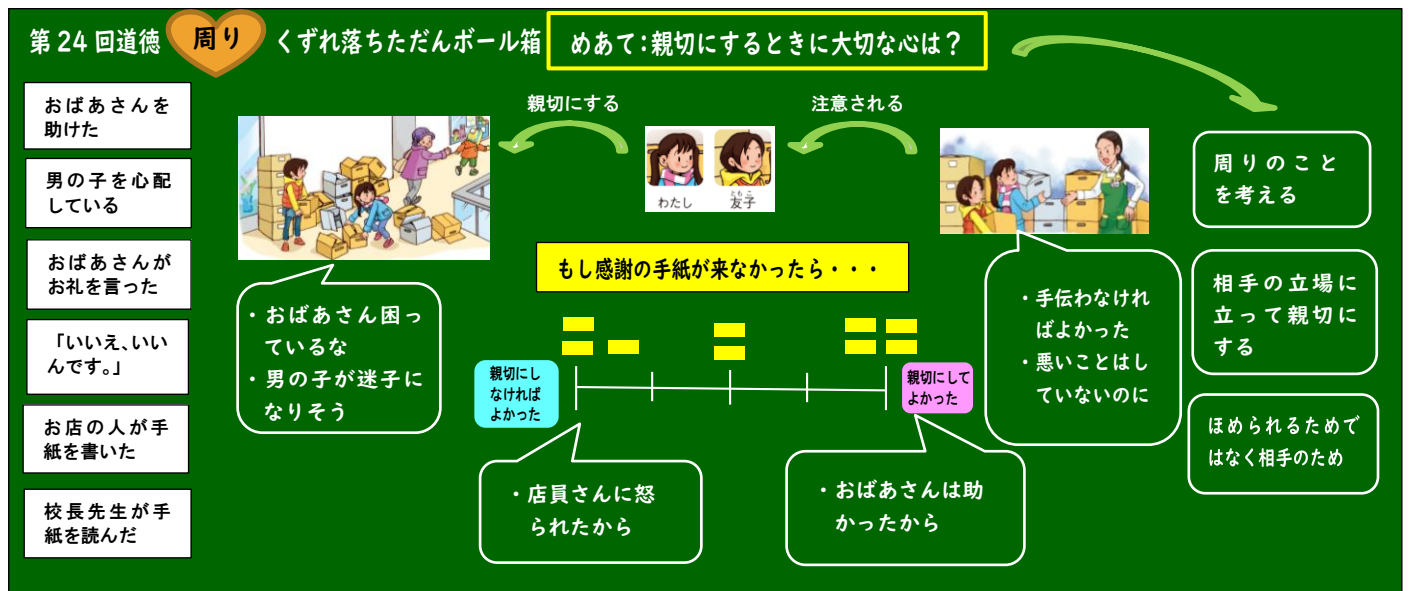
過程	時間	学習活動	◎中心発問 ○発問、指示 ・予想される児童の反応	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	3	1 4コマ漫画をもとに、「親切」について問題意識をもち、本時のめあてを立てる。	○4コマ漫画から親切を見つけましょう。 ・席をゆずっている。 ○どんな気持ちでこのような行動をとったのだろう。 ・はずかしいからかな。 ・認めてもらえないのに。 ・自分だったら・・・。	◇ICTを活用し、見返りを求めずに親切な行動をとる場面を提示することで問題意識を高めることができるようにする。 ◇一人一人がめあてをもつことで、主体的に活動できるようにするとともに、見通しをもって授業に参加できるようにする。
		めあて：親切にするときに必要な心とは何だろう。		
展開	5	2 教材「くずれ落ちただんボール箱」を聞いて考え、話し合う。	○親切な行動を見つけながら聞きましょう。 ・おばあさんを助けた。 ・お店の人に言わなかった。	◇範読の前に聞く視点を指示し、本時のねらいに迫ることができるようにする。また、児童の気づきを発問に生かしていく。
	5	(1) 困っているおばあさんを助けた二人の気持ちを考える。	○二人はどんな気持ちでおばあさんを助けたのでしょうか。 ・おばあさんが困っているな。 ・男の子が迷子になりそう。	◇二人のした行動が親切心からであったことを押さえ、共感できるようにする。 ◇「知らない人でも親切にするのか。」など問い返すことで、誰にでも親切にする価値について考えを深める。
	5	(2) 店員に注意された二人の気持ちを考える。	○店員に注意された二人はどんな気持ちだったでしょう。 ・手伝わなければよかった。 ・悪いことはしていないのにどうして。	◇親切が誤解されて腹が立った二人に共感できるようにする。 ◇「なぜおばあさんに言わなかったのか。」など問い返すことで、「親切」の価値を捉えられるようにする。
	10	(3) もし手紙が来なかったら、自分だったらどう思うかについて考える。	◎もし手紙が来なかったら、みなさんだったら親切にしなければよかったと思いますか。それとも親切にしてよかったと思いますか。 ・誤解されたから親切にしなければよかった。 ・おばあさんは助かったのだから親切にしてよかった。	◇心情スケールとネームカードを使って考えの可視化を図るとともに、理由を話し合うことで多面的・多角的に考えを深めることができるようにする。 ◇「もしおばあさんを助けなかったら」など問い返すことで、人に認められなくても「親切」の価値は変わらないことに気付かせ、考えを深める。
終末	7	3 「親切にするときに必要な心」について話し合い、自分なりの納得解を得る。	○親切にするときに必要な心はどんな心でしょう？ ・ほめられるためではなく、相手のことを考えてする。 ・相手の立場に立って親切にする。	◇話合いの中で質問や納得した考えが出なかった場合、「きらりタイム」を設けることで自分の考えを深めることができるようにする。 ◇目的に応じて臨機応変にペアやトリオでの話し合いを取り入れる。 ◇児童一人一人が、めあてに対する納得解を得られるようにするために、板書を効果的に活用する。
	10	4 自分自身の生活を振り返る。 (1) 本時の学習について振り返り、友達と交流する。 (2) 学校生活の中で親切にしている場面の写真を見る。	○今日の学習について振り返りましょう。 ○皆さんの学校生活の中にも親切がたくさんあります。見つけてみましょう。 ・自分たちも周りの人に親切にできているんだな。	◇「今日の学習で見つけた大切にしたい心」等について振り返り、自己の生き方につなげられるようにする。 ◇ICTを活用し、自分たちが親切にできている姿を視聴することで、今後の生活への意欲を高める。

(3) 本時の評価(ワークシート・発表)

【視点1】 「親切にするときに必要な心」について話し合うことを通して、友達の考えのよさに気付くとともに、親切にすることの価値について多面的・多角的に考えている。

【視点2】 「親切にするときに必要な心」について、自分との関わりで考えている。

【板書計画】



【ICT活用計画】

- ・ 導入でパワーポイントを活用し、4コマ漫画を提示することで、問題意識を高めることができるようにする。
- ・ 終末でタブレットを活用して振り返りを行うことで、振り返りの内容を友達と共有できるようにするとともに、学習の跡を積み重ねていけるようにする。
- ・ 終末でパワーポイントを活用し、親切にできている場面を提示することで、今後の生活への意欲を高める。